こんにゃくをめぐる事情

令和２年6月

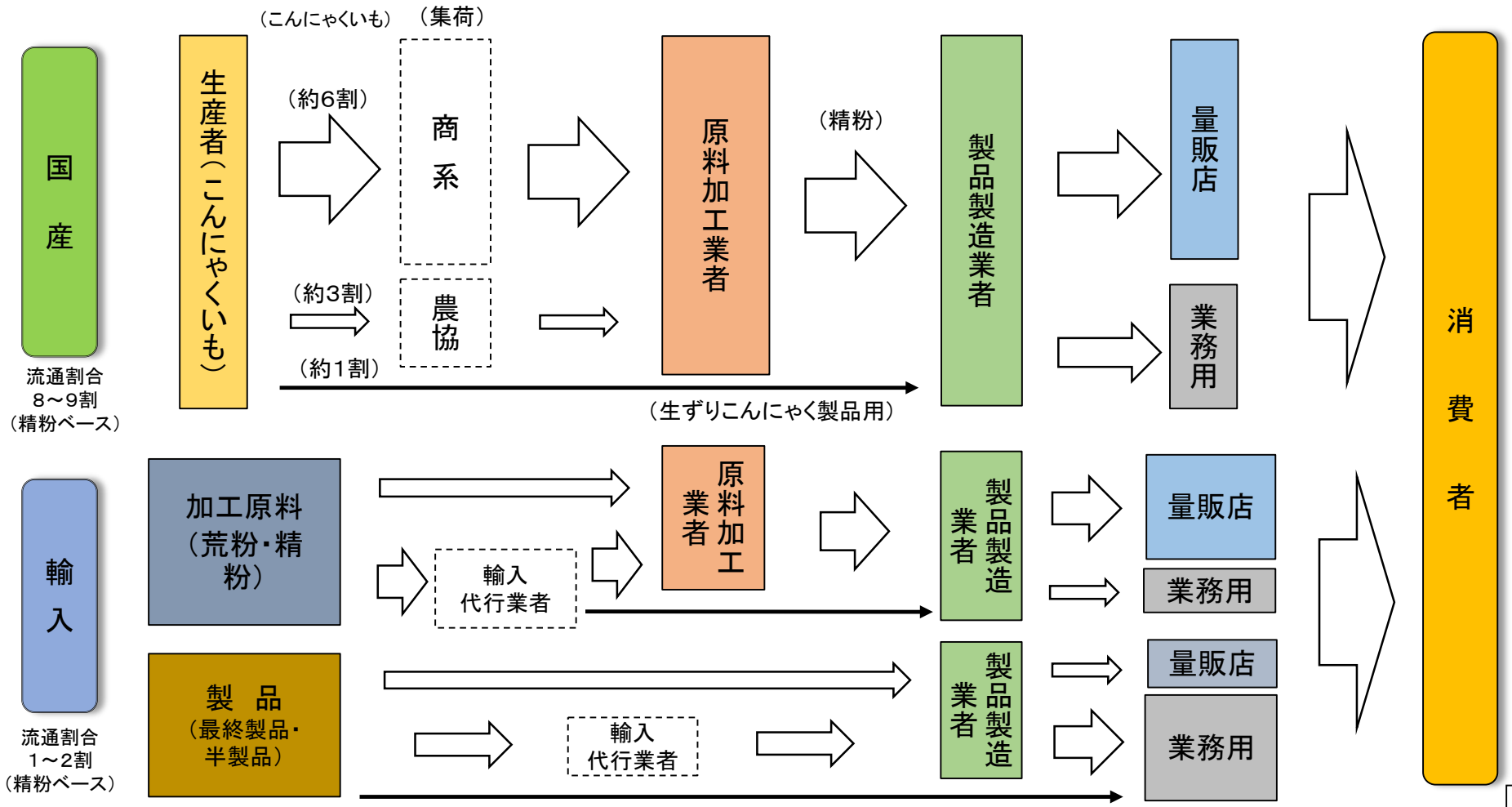
農林水産省

1　流通状況

○　国産こんにゃくいもは、産地の荒粉・精粉加工業者が買い取り、精粉（こんにゃく粉）に加工され、精粉を全国の製品製造業者が購入し、板こんにゃくなどの製品に加工し、スーパー等の量販店へ卸される。

○　輸入こんにゃくいも（荒粉又は精粉の状態で輸入）は、精粉加工業者が輸入し、低品質な精粉はアルコール洗浄の上、製品製造業者へ販売する。

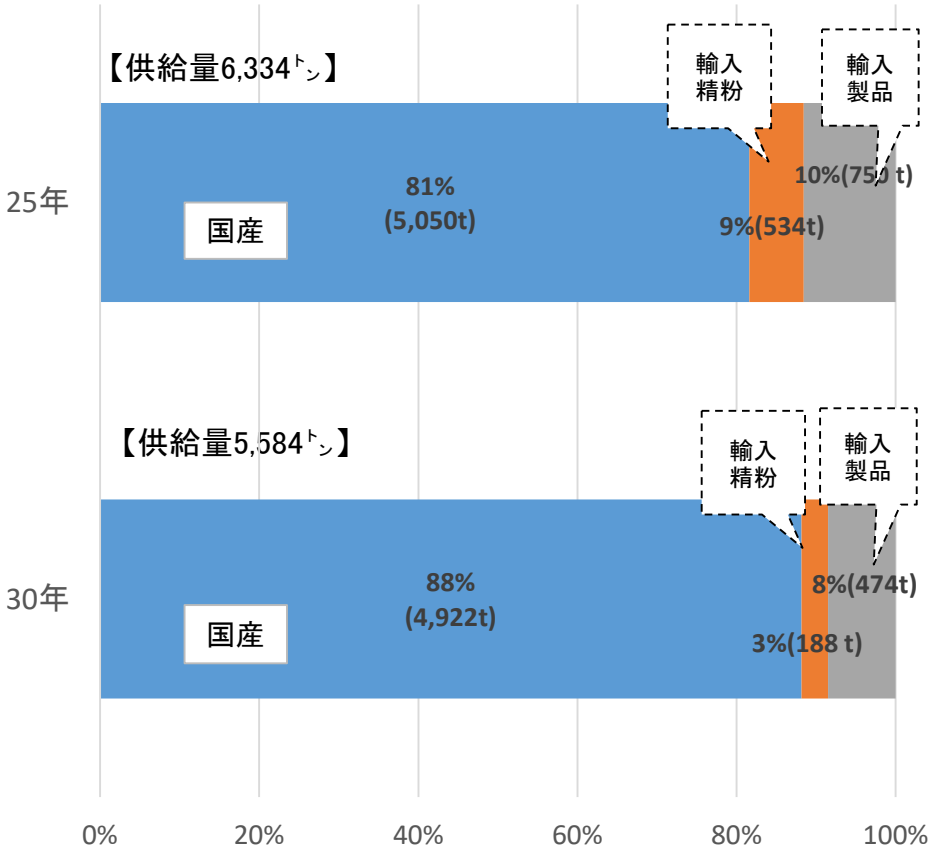
○　こんにゃく製品については、バルクで輸入し、製品製造業者が小分け包装し最終製品として、量販店等へ卸される。



2　需要動向

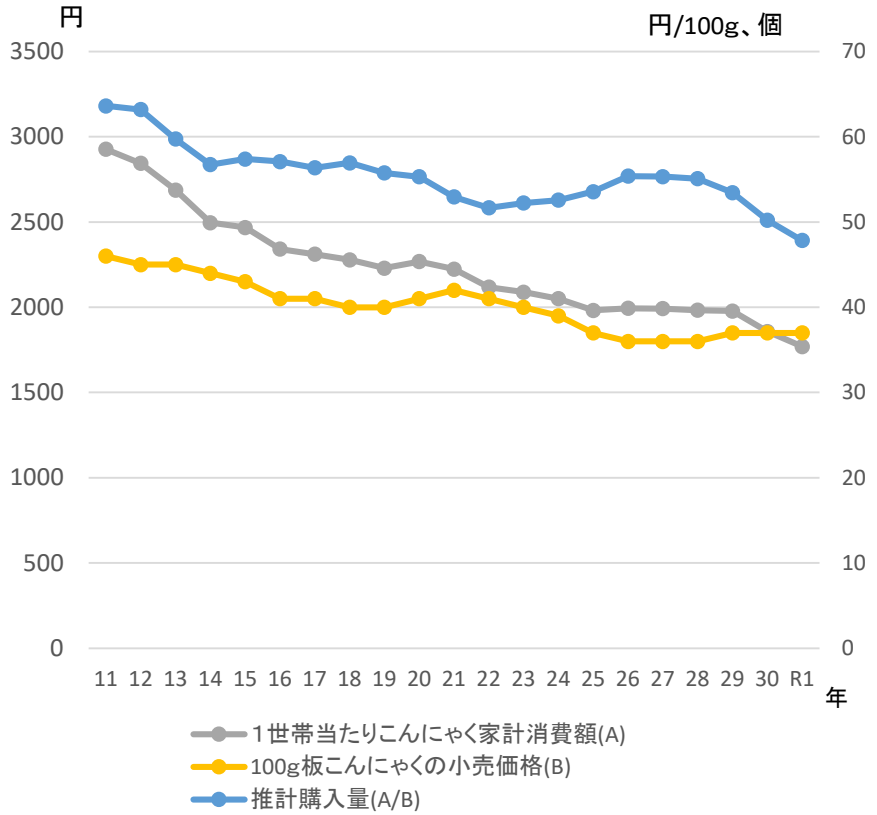
○　こんにゃくいもの供給量（精粉換算）は、25年度は6.3千トン、このうち国産は約5千トン、輸入品が約1.3千トン、30年度は5.6千トン、このうち国産は5千トン、輸入品が約0.7千トンとなっている。
○　こんにゃく製品（板こんにゃく）の小売価格は低下傾向にあり、家計消費も減少傾向にある。一世帯当たり消費量を板こんにゃく価格で推計すると、平成14年までは減少傾向にあったが、近年は概ね横ばいで推移している。

【こんにゃくいもの供給状況（精粉換算）】



資料：（一財）日本こんにゃく協会「こんにゃくに関する資料」
注1：こんにゃくいもの輸入品は、粉の状態で輸入されている。
注2：輸入こんにゃく製品分は、輸入数量を精粉換算（製品倍率33倍）し算出
注3：年は当該年の11月から翌年10月まで

【こんにゃく製品（板こんにゃく）の消費量の推移】

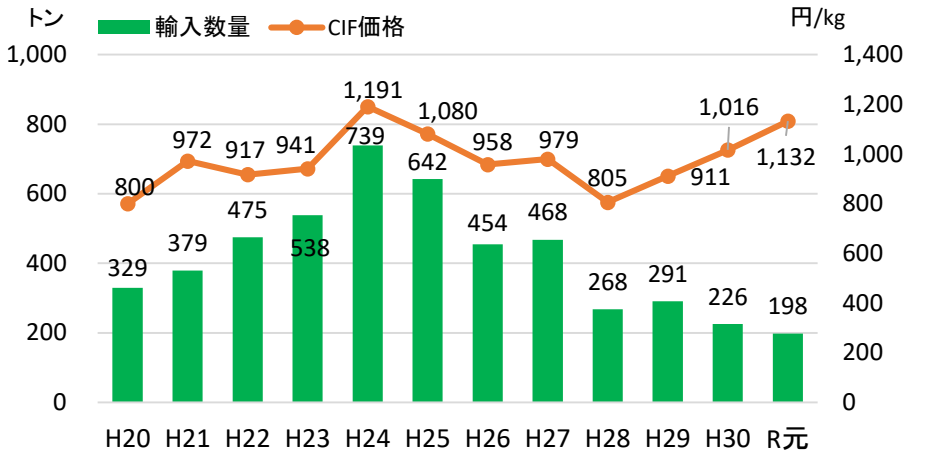


資料：総務省家計調査

3　輸入状況

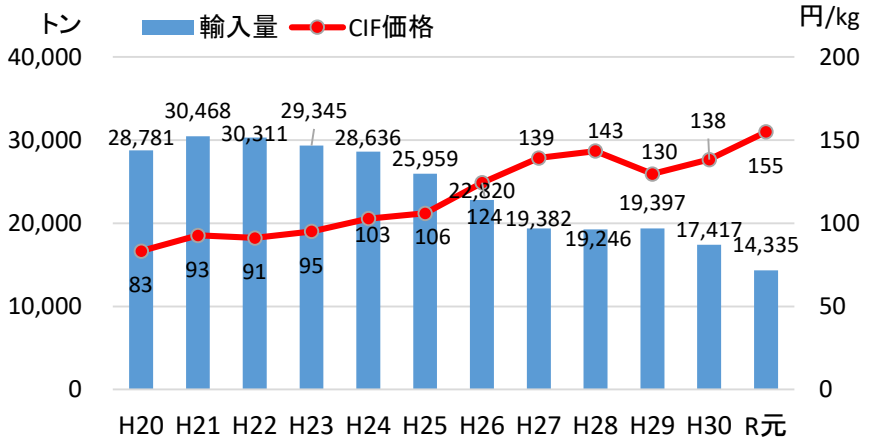
○　こんにゃくいもの輸入量は、平成19年４月のＬＤＣ(後発開発途上国)に対する無税無枠措置の対象として適用されて以降、ミャンマー、ラオス産の増加に伴い急増したものの、平成24年度以降は減少傾向に推移し、平成30年度は平成24年度の約３割まで減少している。なお、輸入数量に占めるＬＤＣ産（ミャンマー、ラオス）の割合は約９割と大きい状況にある。
○　こんにゃく製品の輸入量は、減少傾向に推移しているが、輸入価格は上昇傾向に推移している。なお、中国から約９割を輸入している。

【こんにゃくいもの輸入の推移（年度）】



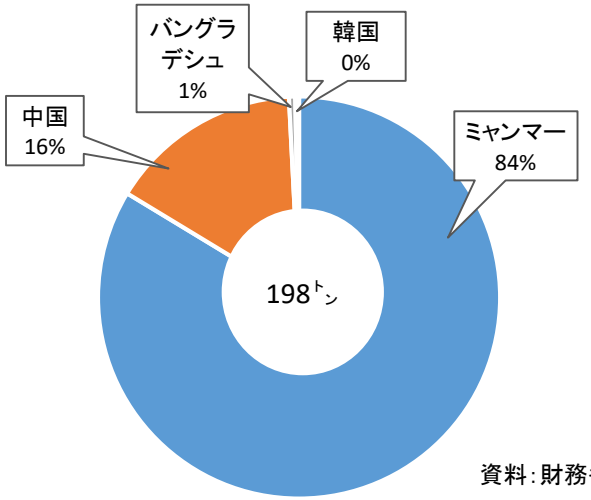
資料：財務省「貿易統計」

【こんにゃく製品の輸入量の推移（年度）】



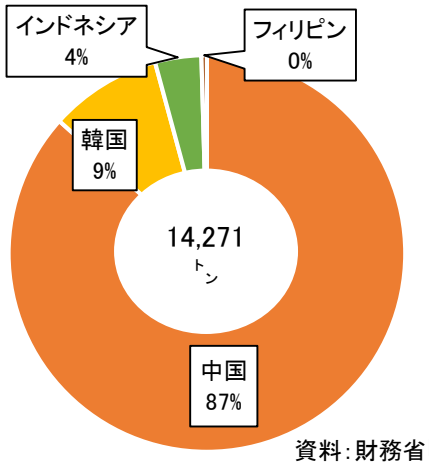
資料：財務省「貿易統計」

○　こんにゃくいもの国別輸入の状況（R元年度）



資料：財務省「貿易統計」

○　こんにゃく製品の国別輸入の状況（R元年度）



資料：財務省「貿易統計」

（参考１）特別セーフガード（ＳＳＧ）の概要について

＜数量ベース特別セーフガード＞

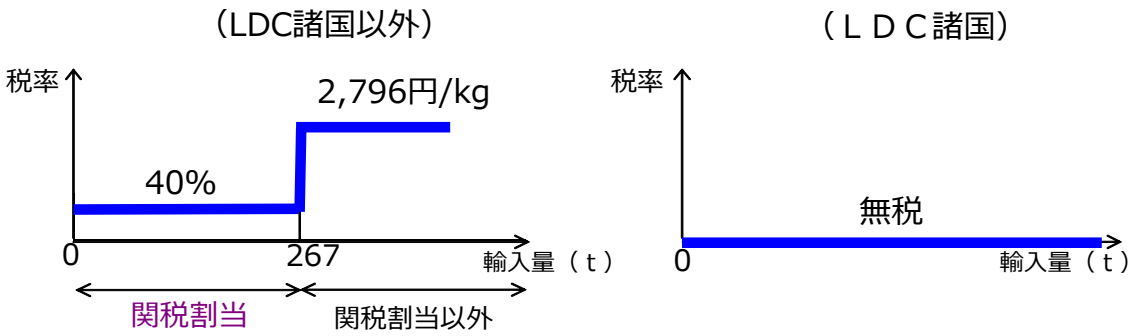
年度の累計輸入量が、輸入基準数量を超えた場合、自動的に、翌々月以降３月末まで、通常関税の １/３の追加関税を上乗せする仕組み。

＜価格ベース特別セーフガード＞

船荷毎の輸入価格が発動基準価格の90%を下回る場合、自動的に、要件を満たした船荷毎に、通常関税＋追加関税（発動基準価格と輸入価格の差に応じて最大52%）を賦課する仕組み。

こんにゃく芋（粉）の場合
- 発動基準価格：665.81円/kg
- 発動基準価格の90%：599.229円/kg
- 通常関税：2,796円/kg

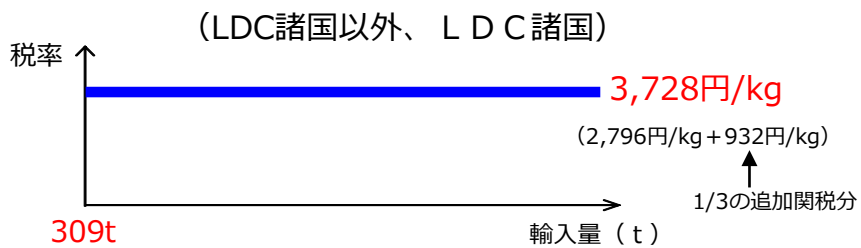
＜通常時＞



輸入基準数量(R2：309ｔ）を超過した場合
（過去３年平均輸入数量×125%の数量を超える輸入数量）

＜ＳＳＧ発動時＞

発動期間：発動要件を満たした時点の翌々月～当該年度末まで



※関税割当枠（40%）で輸入されるこんにゃく芋には、適用されない。

＜価格ベース特別セーフガードの発動状況＞

平成15年度１件、平成18年度25件、平成19年度３件、平成20年度１件、平成21年度１件、これまで31件発動されている。

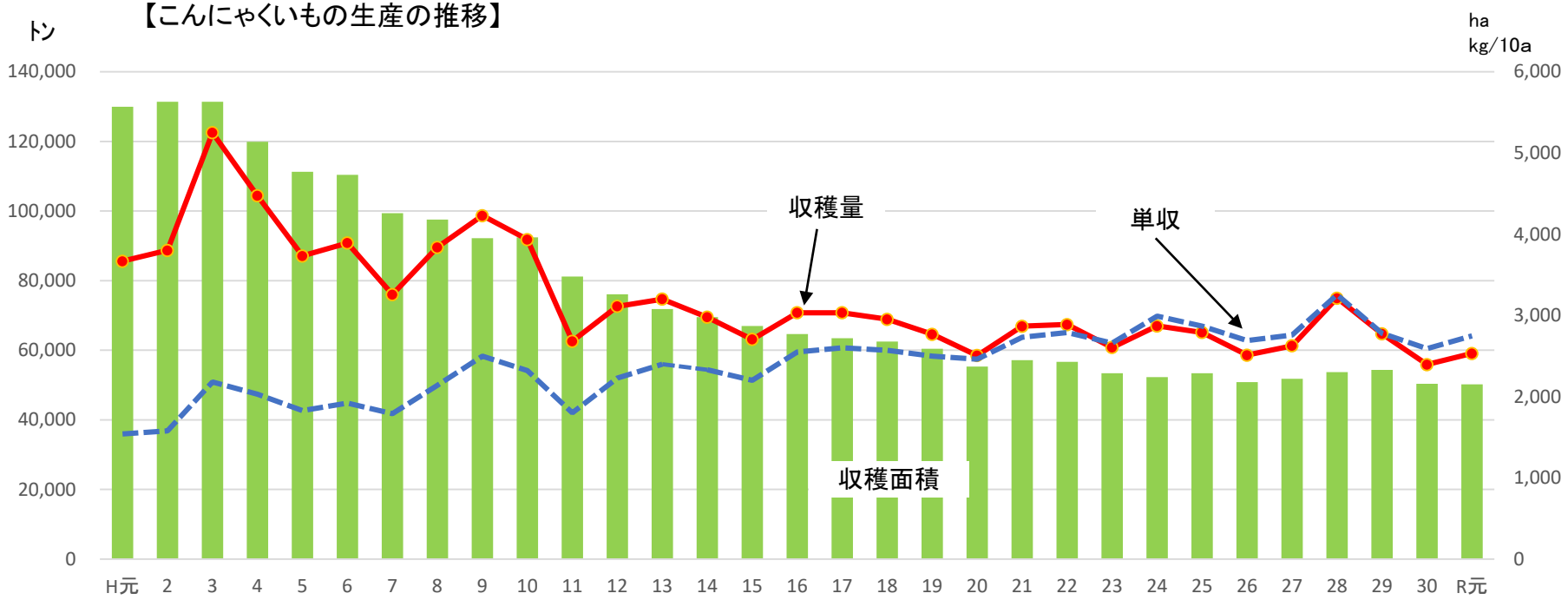
＜数量ベースの特別セーフガードの発動状況＞

平成20年度：２月１日～３月31日
平成21年度：９月１日～３月31日
平成22年度：７月１日～３月31日
平成24年度：12月１日～３月31日

4　栽培面積等の推移

○　こんにゃくいもの栽培面積は高齢化や担い手不足により減少傾向に推移しているが、元年産の収穫面積は前年並みとなった。また元年産の収穫量については、7月の日照不足の影響等により生育が抑制されたものの、作柄が特に悪かった前年産に比べて被害が少なく、前年産を6%上回った。

【こんにゃくいもの生産の推移】



資料：農林水産省「農林水産統計」

【最近5カ年の生産状況】

	Ｈ２７年産	28年産	29年産	30年産	Ｒ元年産
栽培面積（ha）	3,910	3,910	3,860	3,700	3,660
収穫面積（ha）	2,220	2,303	2,330	2,160	2,150
生産量（ﾄﾝ）	61,300	74,982	64,700	55,900	59,100
単収（kg/10a）	2,760	3,255	2,780	2,590	2,750

資料：農林水産省「農林水産統計」

5　県別び品種別の栽培面積等の状況

○　こんにゃくの収穫量の９割以上を群馬県で占めており、群馬県においては中山間地域の基幹作物として重要な役割を担っている。
○　品種別には、球茎収量が多く、病害に比較的強い「あかぎおおだま」の栽培面積が約５割となっているが、近年、球状生子が多く（機械植え付けが可能）、球茎収量が「あかぎおおだま」と同程度で、病害に強く、精粉歩留が高い「みやままさり」の栽培面積が拡大している。

【栽培面積上位５県の生産状況（令和元年度）】

	全国	群馬県	栃木県	茨城県	広島県	福島県
栽培面積（ha）	3，700	3，280	89	40	32	22
	100%	88．6%	2．4%	1．1%	0．9%	0．6%
収穫量（トン）	55，900	52，100	1，490	765	374	228
	100%	93．2%	2．7%	1．4%	0．7%	0．4%
単収（kg/10a）	2，590	2，700	2，400	2，550	2，080	2，070

資料：農林水産省「農林水産統計」、（一財）日本こんにゃく協会「こんにゃくに関する資料」

【品種別栽培面積の状況（令和元年度）】

単位：ｈａ

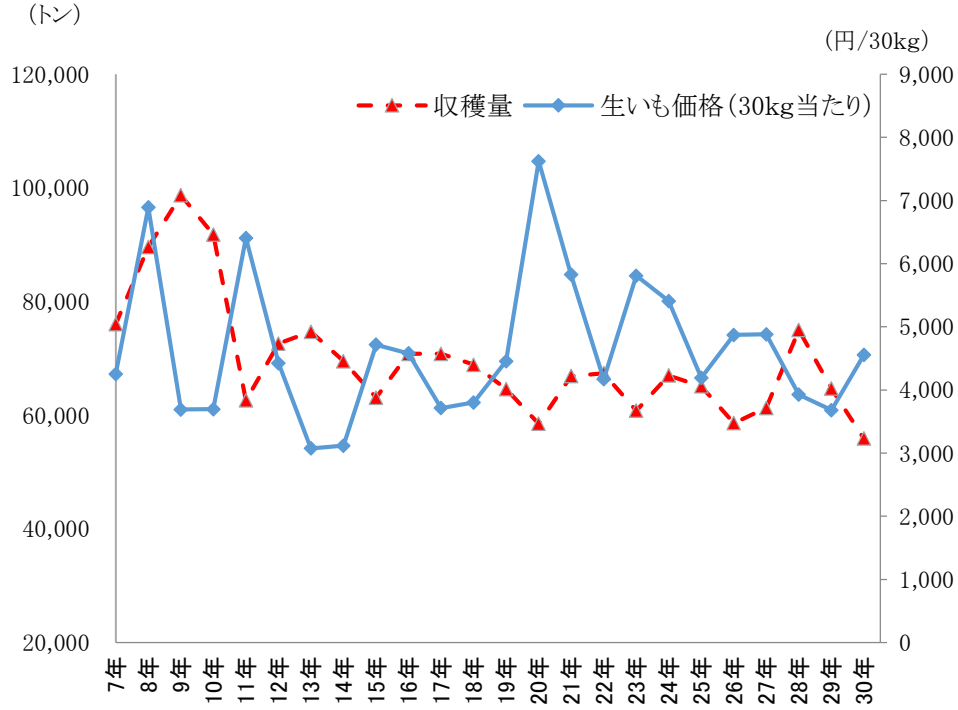
品種名	平成26年		平成27年		平成28年		平成29年		平成30年	
	栽培面積	割合	栽培面積	割合	栽培面積	割合	栽培面積	割合	栽培面積	割合
あかぎおおだま	2，405	65.9%	2，286	63.0%	2，225	61.6%	2，089	58.3%	1，815	52.1%
みやままさり	891	24.4%	1，018	28.1%	1，073	29.7%	1，203	33.6%	1，487	42.7%
はるなくろ	264	7.2%	249	6.9%	224	6.2%	206	5.8%	106	3.0%
在来種	74	2.0%	59	1.6%	75	2.1%	71	2.0%	60	1.7%
みょうぎゆたか	7	0.2%	7	0.2%	7	0.2%	7	0.2%	7	0.2%
支邦種	10	0.3%	7	0.2%	7	0.2%	7	0.2%	7	0.2%
計	3，651	100%	3，626	100%	3，611	100%	3，583	100%	3，481	100%

資料：（一財）日本こんにゃく協会「こんにゃくに関する資料」

6　価格動向

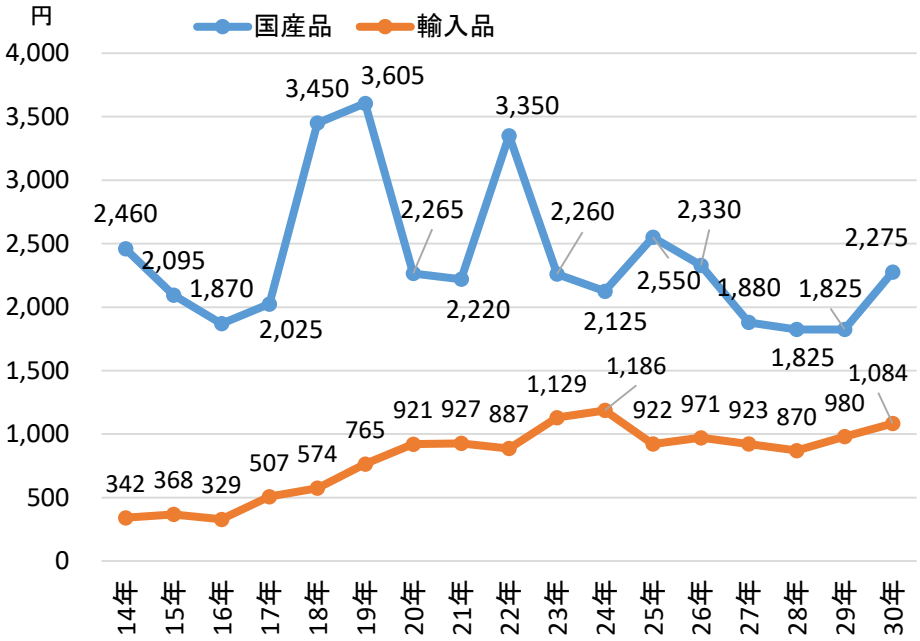
○　こんにゃくいもは、気象や病害等の影響を受けやすいため、収穫量の年次変動が大きく、これに伴い、生いも価格も大きく変動している。
○　輸入こんにゃくいも（精粉）の価格は、上昇傾向にあったが、近年は低下傾向で推移している。
○　なお、国産こんにゃくいもと輸入こんにゃくいもの価格差は、２倍以上となっている。

【こんにゃくいもの収穫量と生いも価格の推移】



資料：収穫量は、農林水産省「農林水産統計」、生いも価格は、農業物価統計である。

【国産こんにゃくいもと輸入こんにゃくいもの価格の推移（精粉）】

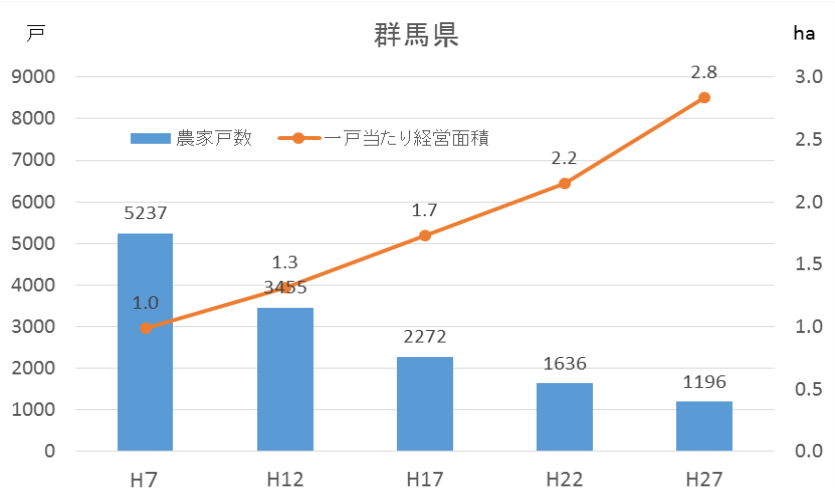


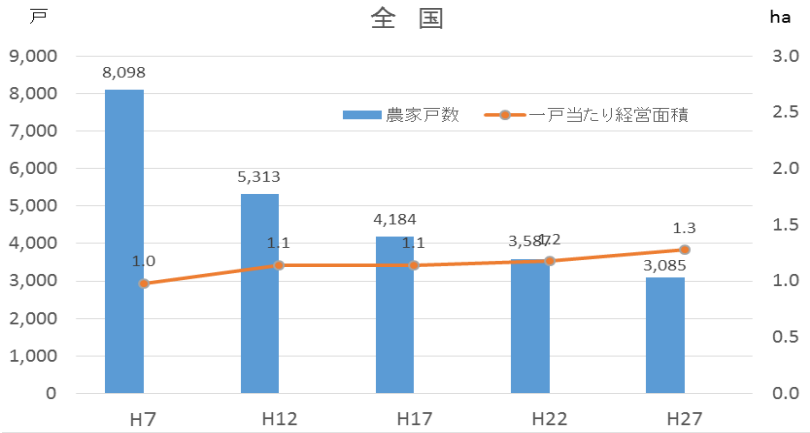
資料：全国蒟蒻原料協同組合、財務省「貿易統計」
注1：国産こんにゃくいもの価格は、全国蒟蒻原料組合会員による売り渡し価格の平均値（精粉）である。
注2：輸入こんにゃくいもは、CIF価格である。

7　群馬県の生産状況

○　主産県である群馬県の栽培農家数は、20年間で２割まで減少する一方で、一戸当たり平均栽培面積は20年間で1.0haから2.8ha（全国平均は1.0haから1.3ha）と大幅に拡大している。
○　また、経営形態別には、こんにゃく専作経営が約３割、複合経営が約７割となっている。

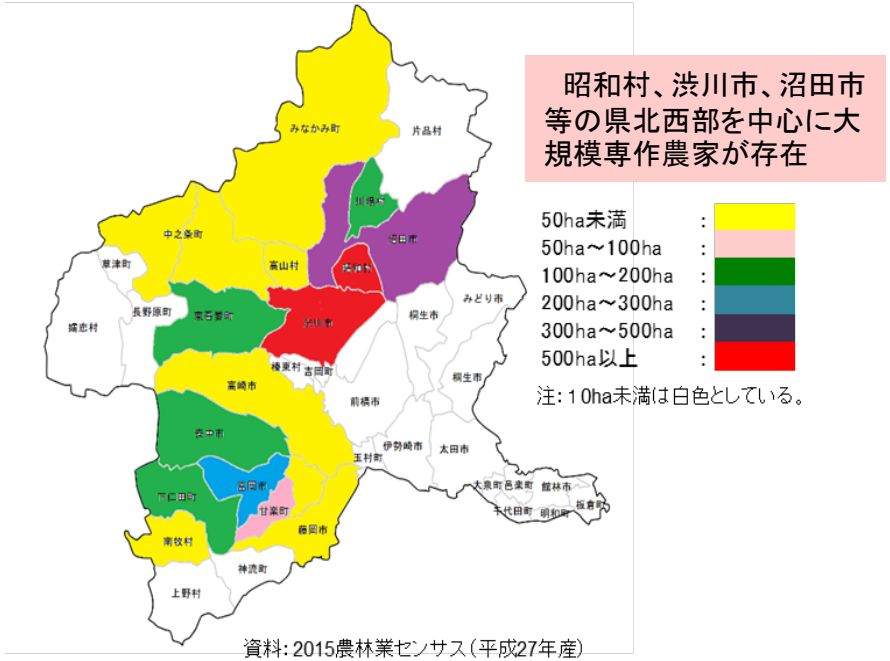
【こんにゃく栽培農家数（販売農家）及び一戸当たり栽培面積の推移】





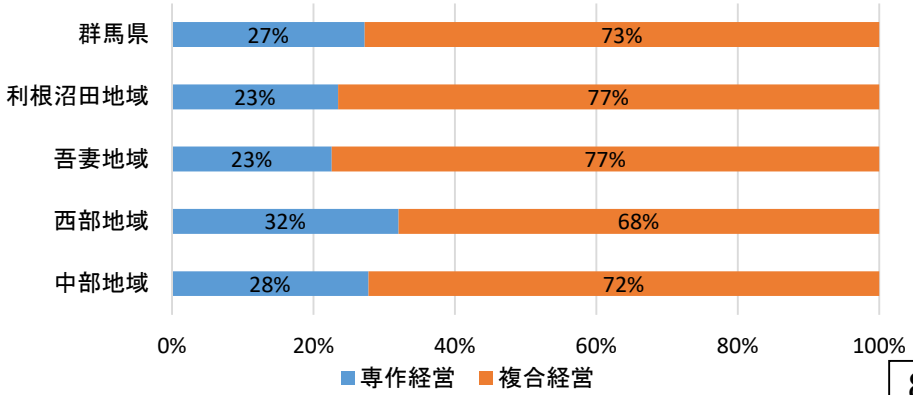
資料：農林水産省「世界農林業センサス」
注：H7年は経営面積10a以上又は販売金額15万円以上の農家。H12年からは経営面積30a以上又は販売金額50万円以上の農家。

【こんにゃくいもの生産地域】



資料：2015農林業センサス（平成27年産）

【経営形態別農家数の状況（令和元年）】



資料：（一財）日本こんにゃく協会「こんにゃくに関する資料」

○ 近年、群馬県では、農家１戸当たりの作付面積が増加しており、５ha以上の大規模経営が多くなっている。

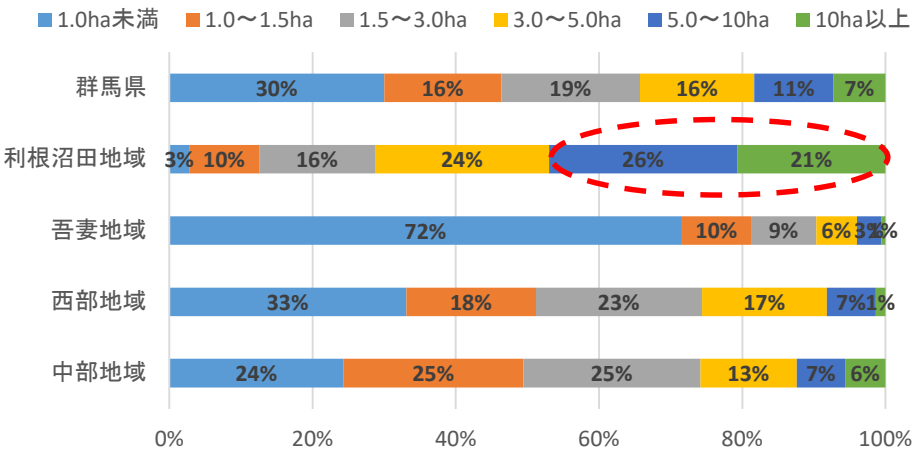
【群馬県のこんにゃく生産の状況】

○群馬県内のこんにゃく芋の生産農家数、作付面積と生産量

群馬県内	H19	H27	H28	H29	H30	R元	割合（R元/H19）
作付面積(ha)	3,590	3,390	3,370	3,350	3,280	3,250	91%
生産量(t)	58,900	56,500	69,500	59,700	52,100	55,300	94%
生産農家数(戸)	1,942	1,333	1,226	1,190	1,022	983	51%
・5ha以上	82	168	176	174	177	180	220%

資料：作付面積・生産量は、農林水産統計。
生産農家数は（一財）日本こんにゃく協会「こんにゃくに関する資料」

【栽培規模別農家数割合の状況（R元）】



資料：（一財）日本こんにゃく協会「こんにゃくに関する資料」

【大規模経営の例】

	個人・専作	個人・専作
栽培面積（ha）	16	7．5
労働力（人）	10～11	10
うち家族	4	4
うち雇用	6～7	6
所有農業機械	ﾄﾗｸﾀｰ4台、ﾌﾞｰﾑｽﾌﾟﾚｰｱ2台、ﾏﾙﾁ同時消毒機1台、植付機2台、掘取機2台、選別機1台、生子選別機1台、ﾌｫｰｸﾘﾌﾄ3台、トラック4台、など	ﾄﾗｸﾀｰ4台、ﾌﾞｰﾑｽﾌﾟﾚｰｱ1台、植付機1台、堀取り機1台、選別機1台、トラック4台
農業粗収益（千円）	95,050	53,789
農業経営費（千円）	74,556	46,211
農業所得（千円）	20,493	7,578

注：農林水産祭受賞者の例である。

【群馬県におけるこんにゃくいもの生産振興の取組例】

昭和38年5月にこんにゃく生産農家が栽培技術や経営の向上を図ること目的に、群馬県こんにゃく研究会を設立。渋川、高崎、多野富岡、甘楽富岡、吾妻、利根沼田の5地区から組織され、現在約600名が所属。

研究会の中に流通問題検討部会も組織されており、消費拡大や流通問題についても取り組んでいる。

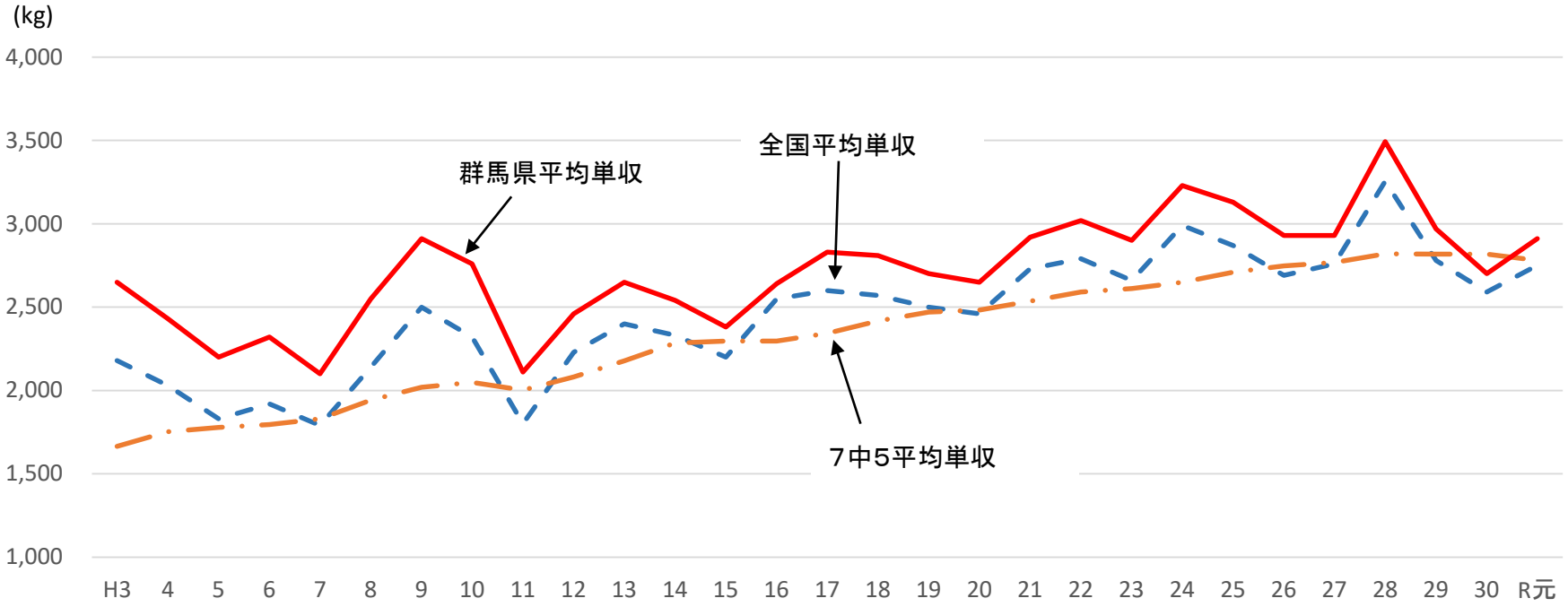
＜活動内容＞

・ 生育検討会、現地研究大会、実績検討会、新技術の実証等

8　１０アール当たり収量の状況

○　こんにゃくいもは、気象や病害等の影響を受けやすく作柄は毎年大きく変動している。このため、１０アール当たり収量は、年変動が大きいものの、耐病性品種の普及、保護作物の導入、土壌消毒や適期防除の徹底等により向上している。なお、主産地の群馬県は全国平均を上回る状況となっている。

【こんにゃくいもの10アール当たり収量の推移】



注：10a当たり平均収量は、直近7ヶ年間のうち、最高及び最低を除いた5ヶ年の平均値である。

資料：農林水産省「作物統計」

【こんにゃくいもの作柄の推移】

年産	H27年産	H28年産	H29年産	H30年産	R元年産
作況指数	９５	１０３	９３	８７	１０２

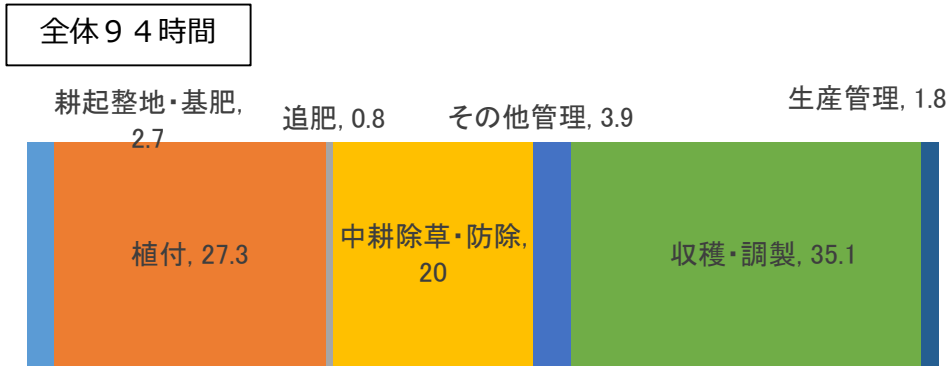
資料：群馬県調べ

注：収穫期における1年生、2年生、3年生の平年比加重平均である。

9　労働負担等の状況

○　こんにゃくの作業時間のうち、植付作業が29%、収穫・調製作業が37%と労働負担が大きい。植付作業は、機械による省力化が可能であるが、収穫作業については、一貫した機械化体系が確立していないことから、近年、大規模経営において雇用労働力の確保が大きな課題となっており、掘り起こし、拾い上げ、選別工程を同時に行う機械の開発が必要となっている。

【作業別労働時間の状況（平成２１年、群馬県）】



資料：農林水産省「工芸作物等の生産費」

【栽培作業体系】

【大規模農家の労働時間の例（時間/１０ａ）】

・作付面積：１６．３ｈａ
・労働力：家族４人　雇用　長期６～７名、短期１０～３０人／日

		作業内容	労働時間	群馬県平均（２１年）
全　体		栽培管理	２１．７	５６．５
		収穫調製	７３．０	３８．０
		計	９４．７	９４．５
	家族労働	栽培管理	９．４	
		収穫調製	２６．４	
		計	３５．８	６５．１
	雇用	栽培管理	１２．３	
		収穫調製	４６．６	
		計	５８．９	２９．４

資料：財団法人日本農林漁業振興会「農林水産祭受賞者の業績」、群馬県農林統計協会「こんにゃくいもの新しい情報」

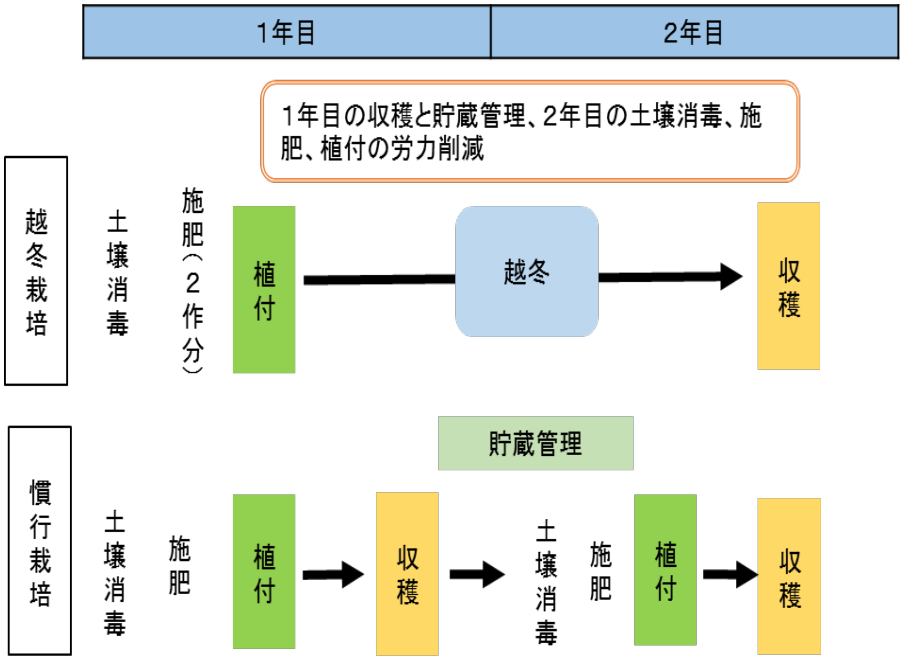
10　新たな低コスト・省力化栽培技術

○　群馬県においては、生産コスト低減を図るため、労働負荷の大きい植付や収穫作業等の省力化や農薬等の資材費の削減が可能なこんにゃく越冬栽培技術の導入を推進している。

○　経営規模拡大に伴う全量施肥体系等による減収や培土作業時期の他作業との重複に対応し、省力的な作業が可能な培土同時複合作業機の導入も推進している。

【こんにゃく越冬栽培】

- こんにゃく越冬栽培は、１年目の掘取りや種芋貯蔵管理作業、２年目の土壌消毒や植付け作業等が省略され、労力の削減可能。
- また、１年目の貯蔵経費や２年目の土壌消毒等に関連する農薬や資材等の削減が可能。



【こんにゃく培土同時複合作業機】

- こんにゃくの施肥体系は、施肥を植付け前と培土時に分けて行う方法であるが、経営規模拡大に伴い植付前の全量基肥体系が増加。しかし、生育後半の肥大性が高い「みやままさり」への品種更新や全量基肥では豪雨などによる肥料の流亡が生じ、減産となる場合がある。加えて、培土時期は肥料散布のほか、薬剤散布や間作麦播種の作業が重なる。
- 培土同時複合作業機は、乗用機械により、培土、肥料散布、薬剤散布及び麦播種作業を同時工程で行うことで、慣行作業と比べ作業時間を約７割低減可能。

- 培土同時複合作業機は、平成３０年度から販売を開始。
- 販売価格は、２６０万円程度（トラクタ込み）、トラクタと培土機のみの場合は１９２万円。

こんにゃくに関する取組事例（生産）

有限会社　松井農産（群馬県）

《取組の概要》

- こんにゃく芋の収穫作業は手作業が多く、ピーク時には労働力確保が困難。
- 課題解決に向け、補助事業を活用してたまねぎ用ピッカー（収穫機）を掘取りから出荷用コンテナに積めるまでの一連の作業ができるように改良。
- これにより、作業に要していた人員を減らすこと（５人→２人）が可能となり、規模拡大にも資することが可能。

障がい者雇用モデルを構築（群馬県）

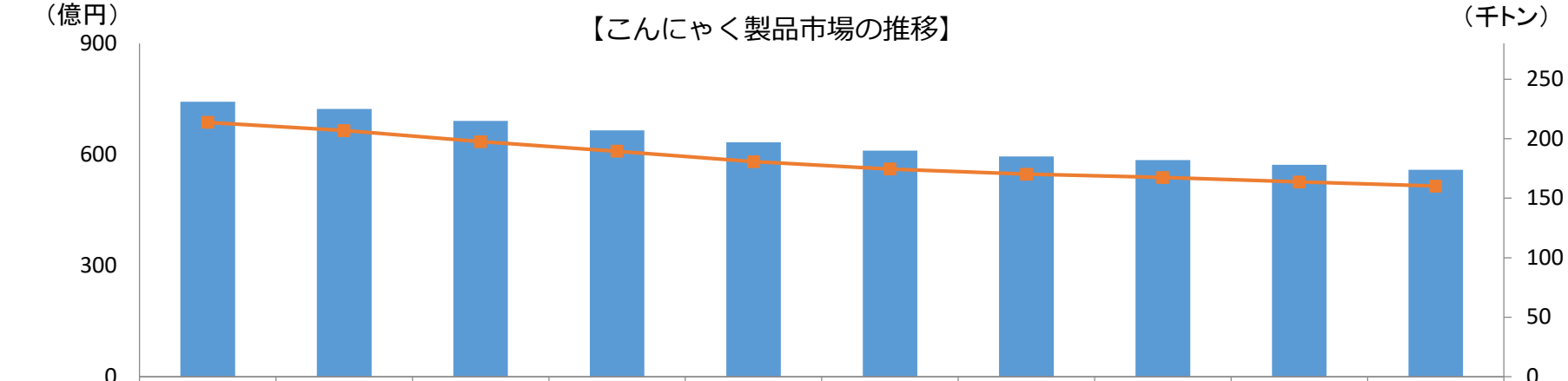
《取組の概要》

- こんにゃく芋の生産現場では収穫時期（11月～12月）の人手不足が、養蚕を手がけている障がい者を雇用している会社では蚕の作業終了後（11月～4月）の就労の場の確保が課題。
- それぞれの課題解決のため、県の農福連携推進プロジェクトチームが調整役となりマッチング。
- 本雇用モデルを他作物への応用や就労支援事業所にも拡充予定。

１１　こんにゃく製品の消費動向

○　こんにゃく製品（板こんにゃく、しらたき等）は、食生活の多様化、家庭での調理機会の減少、下ごしらえが面倒な点等から、販売量は減少。また、量販店等における特売品等の対象とされることから、販売価格は低迷。
○　こんにゃく製品の販売金額は、市販用が約６割、業務用（量販店やコンビニエンスストアの惣菜用、外食用等）が約４割を占めている。また、製品別には、板こんにゃく、しらたき・糸こんにゃくが７割以上占めている。

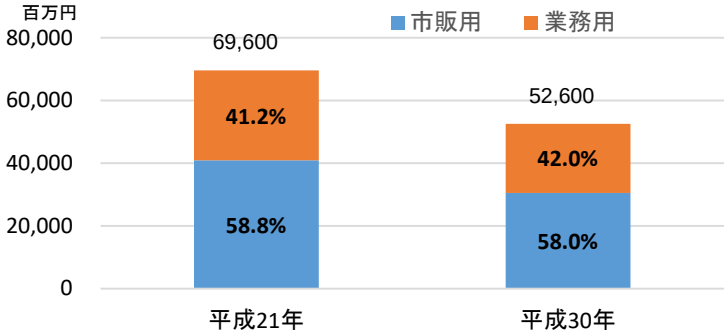
【こんにゃく製品市場の推移】



	H22年	H23年	H24年	H25年	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年	R元年
販売量	231	225	215	207	197	190	185	182	178	174
販売額	687	665	635	609	581	561	547	538	526	515

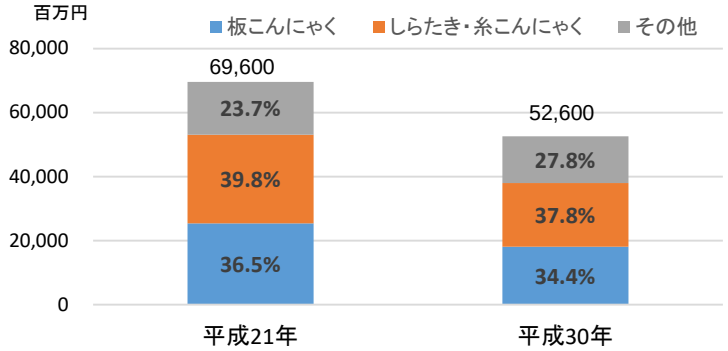
資料：（株）富士経済「2019年 食品マーケティング便覧」
注：平成30年は見込、令和元年は予測

【市販用と業務用のこんにゃく製品の販売金額の状況】



資料：H21：「2011年 食品マーケティング便覧」
H30：「2019年 食品マーケティング便覧」（いずれも（株）富士経済）
注：H30年は見込

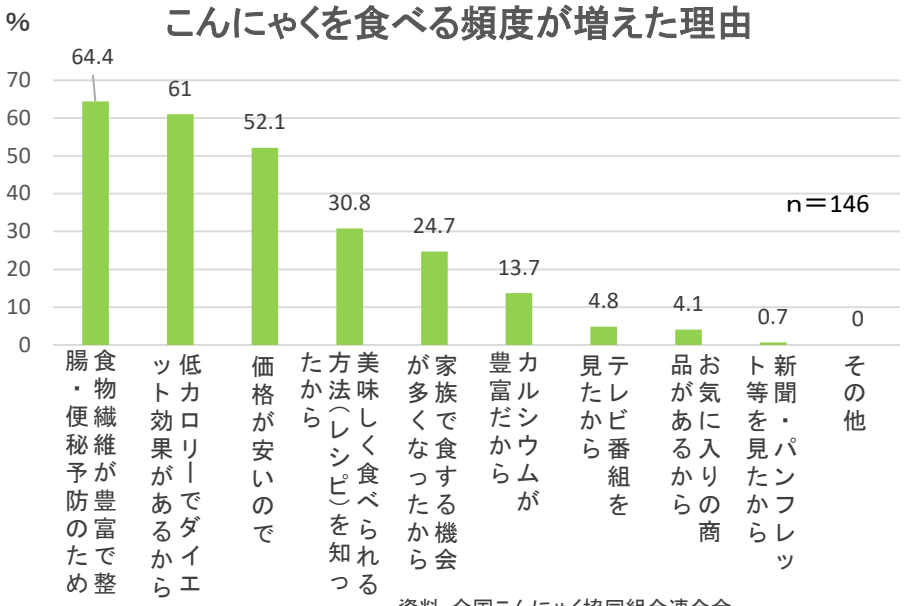
【こんにゃく製品別の販売金額の状況】



資料：H21：「2011年 食品マーケティング便覧」
H30：「2019年 食品マーケティング便覧」（いずれも（株）富士経済）
注：H30年は見込

１２　需要拡大の動向

○　需要拡大に向けた新商品の開発が行われており、例えば、お米状に加工した「こんにゃく米」は、低カロリー・糖質制限が必要な人向けの需要に加えて、市販向けの展開も行われている。また、近年、健康意識の高い欧米等へのこんにゃく製品の輸出拡大が進んでいる。



資料：全国こんにゃく協同組合連合会
「こんにゃくの消費動向分析検討会」調査結果報告書

【群馬県におけるこんにゃく製品の輸出の動き（平成29年度）】

1　主な輸出先
・香港、EU

2　農産加工品輸出金額
・約3億1千万円（うち約7割がこんにゃく）

3　29年度の特徴
・健康食品として海外における認知度が向上し、輸出先の国、地域が広がっているが、外国産との競合も激しくなっている。

注１：群馬県農畜産物等輸出推進機構調べ
注２：群馬県内の企業からの聞き取り調査であって、全ての企業の輸出動向を把握しているものではない。

【新商品開発の取組例】
農林水産省「外食産業等と連携した農産物の需要拡大対策事業」新商品の開発事例

豆乳こんにゃくライス

こんにゃくライス

調理例（ドリア）

調理例（親子丼）

「低カロリー」「低糖質」「食物繊維豊富」という特徴を活かし、米状に成形することで機能性、風味食感（もちもち食感）及び調理簡便性（炊飯しなくてよい）を持ち合わせた次世代の米様食品。

豆乳ヌードルputipa（プチパ）

こんにゃく麺

調理例（サラダ）

調理例（パッタイ）

おからを組み合わせて麺のコシを出し、豆乳クリームを加えて美味しさを実現。こんにゃく麺であるが、豆乳クリームやおからの豊かな香りを持つ。あく抜きも不要であるため、袋から出して即食が可能な新感覚の麺。

こんにゃくに関する取組事例（輸出）

株式会社　北毛久呂保（群馬県）

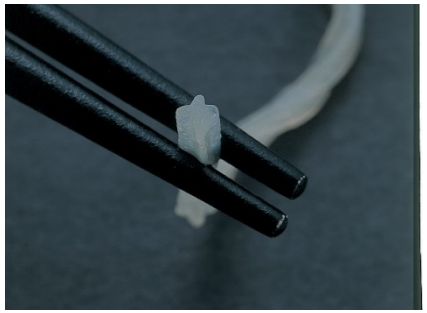
《取組の概要》

- ユニークな発想で県産品こんにゃくの新商品開発の一翼を担う企業。
- 2016（H28）年から輸出への取組を本格化。群馬県の特産であるこんにゃくを焼きそば用こんにゃく麺に加工し、シンガポールに初出荷。
- 2017（H29）年、有力な現地販売代理店と契約し、１年でシンガポールへの輸出額が７倍に。

有限会社　石橋屋（福岡県）

《取組の概要》

- 機械化大量生産の中、熟練の職人が昔ながらのバタ練り製法で製造する企業。
- 2002（H14）年に、シンガポールを皮切りに輸出を開始し、現在では欧米等20カ国に輸出。
- 輸出用に「星型こんにゃく麺」を開発。星型にすることでソースが絡みやすくなり、更に、野菜を配合することで色鮮やかな麺が完成。



１３　支援対策

○　こんにゃくに対する支援措置は、地域の営農戦略として定めた「産地パワーアップ計画」に基づく、生産体制の強化等に必要な機械導入や施設整備に必要な経費を産地生産基盤パワーアップ事業で支援。また、省力化・低コスト化に向けた栽培技術等の実証ほ設置やマニュアル作成、農業機械の改良やリース導入、新商品開発の取組に必要な経費を茶・薬用作物等地域特産作物体制強化促進事業で支援している。

【こんにゃく関係予算】

名称	産地生産基盤パワーアップ事業 （令和元年度補正予算）
事業内容	農業者等が行う高性能な機械・施設の導入や栽培体系の転換等に対して総合的に支援。 海外や加工・業務用等の新市場を安定的に獲得していくための拠点整備、生産基盤の強化・継承、堆肥の活用による全国的な土づくり等を支援。
支援の対象となる取組	貯蔵・加工・物流等拠点施設等の整備、作柄安定技術や作期拡大技術等の実証・導入、農業機械の導入、集出荷施設等の整備、生産基盤を次世代に引き継ぐための再整備・改修、牛ふん堆肥等を実証的に活用する取組　等
支援対象者	地域農業再生協議会等が作成する「産地パワーアップ計画」に位置づけられている農業者、農業者団体等
補助率	施設整備は１／２以内、農業機械リース導入は本体価格の１／２以内等
交付先	基金事業は、基金管理団体へ一括して交付。 整備事業は、都道府県へ交付。
予算額	３４，７５０百万円

名称	持続的生産強化対策事業のうち茶・薬用作物等地域特産作物体制強化促進
事業内容	地域特産物について、生産性の向上等による競争力強化を図るため、地域の実情に応じた生産体制の強化、需要創出など生産から消費までの取組を支援。
補助対象	①　生産体制の強化 栽培技術実証ほの設置、マニュアル作成、省力化・低コスト化のための農業機械の改良及びリース、安定生産技術の確立等の取組　等 ②　需要の創出 消費者ニーズ等把握調査、実需者等と連携した商品開発、製造・加工技術の確立の取組　等
交付率	定額、１／２以内
事業実施主体	民間団体等
交付先	民間団体等
予算額	１，３７０百万円（令和２年度）

○　産地の収益力強化と担い手の経営発展を推進するため、産地・担い手の発展の状況に応じて、農業用機械・施設の導入に必要な経費を農業経営体の規模に応じ切れ目なく、強い農業・担い手づくり総合支援交付金で支援している。

【こんにゃく関係予算】

名称	強い農業・担い手づくり総合支援交付金
事業内容	①　産地基幹施設等支援タイプ ・　地域農業において中心的な役割を果たしている農業法人や農業者団体等による集出荷貯蔵施設等の産地の基幹施設の導入を支援 ・　品質・衛生管理の強化等を図る卸売市場施設、産地・消費地での共同配送等に必要なストックポイント等の整備を支援 ※　助成対象：農業用の産地基幹施設（耐用年数５年以上） 補　助 率：１／２以内等 上　限 額：２０億円
	②　先進的農業経営確立支援タイプ ・　広域に展開する農業法人等が、自らの創意工夫と判断により経営の高度化に取り組むために必要な農業用機械・施設の導入を支援 ※　助成対象：農業用機械・施設（耐用年数５年～２０年） 補　助 率：３／１０以内等 上　限 額：個人1,000万円、法人1,500万円等
	③　地域担い手育成支援タイプ ・　農業者が経営基盤を確立し、更に発展するために必要な農業用機械・施設の導入を支援 ※　助成対象：農業用機械・施設（耐用年数５年～２０年） 補　助 率：３／１０以内等 上　限 額：300万円等
交付先	都道府県
予算額	２３，０２０百万円（令和２年度）

（参考２）こんにゃくいもについて

（１）こんにゃくいもとは

こんにゃくいもは、サトイモ科コンニャク属の多年生植物で、東南アジア原産といわれている。我が国では古くから栽培されており、２～３年かけて肥大した球状の地下茎（球茎）がこんにゃくの原料として利用されている。

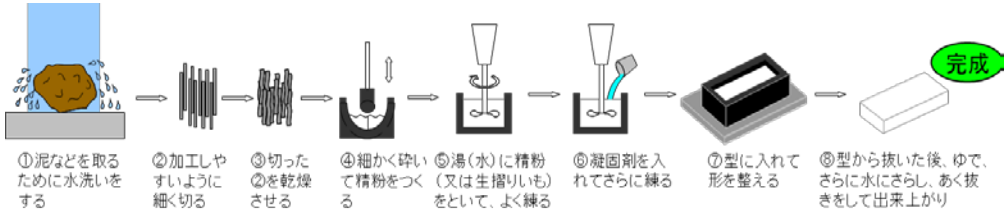
（２）こんにゃくの製造

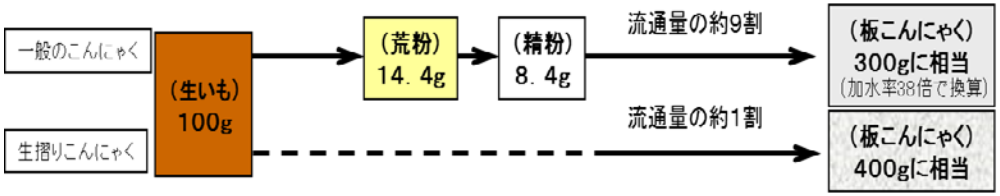
生いもを乾燥・製粉した精粉を、３％程度の濃度になるよう水で溶き、水酸化カルシウム等の凝固剤を加えて練るとゲル化して「こんにゃく」ができる。

また、一部は、生いもをそのまま摺り下ろして、凝固剤を加え、直接こんにゃくを製造している（「生いもこんにゃく」「生摺りこんにゃく」）。

成形した後、ゆで、水にさらしてあく抜きを行い、最終製品となる。

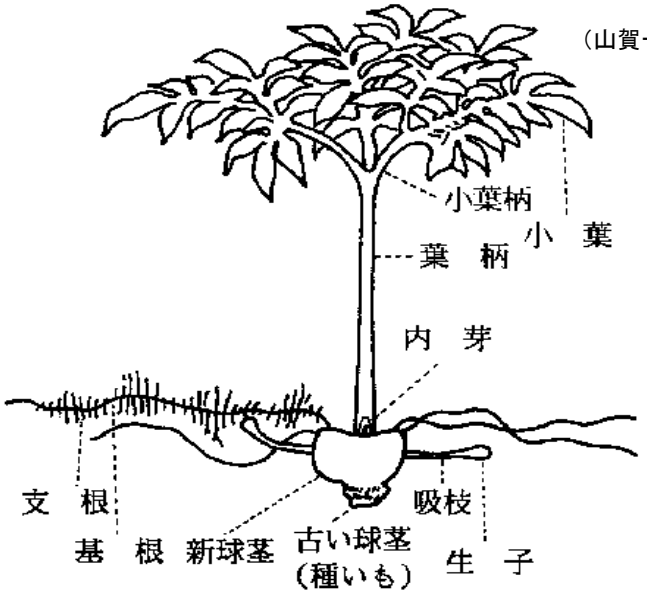
【こんにゃくの製造工程】





○　こんにゃくいもの形態

（山賀一郎原図）



【こんにゃくいもの栽培暦】

	5月 上中下	6月 上中下	7月 上中下	8月 上中下	9月 上中下	10月 上中下	11月 上中下	12月 上中下
1年目	植付					収穫		いも貯蔵
2年目	植付					収穫・出荷		いも貯蔵
3年目	植付					収穫・出荷		

【こんにゃくいもの生育】

（生子）　（１年生）　（２年生）　（３年生）

春に種芋を植えると新芋ができ、そこから地下茎が伸び、秋には生子（きご）ができる。この生子を一度収穫し、次の春に植付け秋に収穫したものを1年生、翌春に1年生を植えて秋に収穫したものを2年生、さらに次の春に2年生を植えて秋に収穫したものを3年生と呼ぶ。

（参考３）　こんにゃく製品の主な種類

○　用途に応じていろいろな種類のこんにゃく製品が製造されている。
○　こんにゃく製品は、カロリーが少なく食物繊維（グルコマンナン）が豊富なため、ダイエット効果や整腸作用等が期待される食品。

名　称	写　真	商品説明	名　称	写　真	商品説明
板こんにゃく		○こんにゃくのうち、型枠等の中で凝固させ、厚い板状に切ったもの又は包装容器に詰め凝固させ、厚い板状に形成したもの。 ○料理の用途にあった切り方ができ、煮物やおでん等に適している。	粒こんにゃく		○こんにゃくのうち、米粒状に凝固させたもの。 ○色を付けることにより、サラダ等に適している。
生芋こんにゃく		○こんにゃく芋（冷凍したものを含む）を生若しくは蒸煮した後、摺りおろし又はつき砕き製造したもの。 ○芋の皮等が入っているため、独特の歯ごたえがある。用途は板こんにゃくと同じ。	刺身こんにゃく		○こんにゃくのうち、板状又は薄片状に成形し、又は切ったもので、そのまま又は簡単な水洗いすることで食べられるもの。 ○わさび醤油等につけてそのまま食べたりサラダ等にも適している。
しらたき （糸こんにゃく）		○こんにゃくのうち、ひも状に凝固させたもの。 ○短時間で味がなじむため、すき焼き等の鍋物や和え物に適している。	ジャーキー風 こんにゃく		○こんにゃくのうち、板状又は薄片状に成型し、又は切ったものを、釜などで味付けをしたのち、乾燥させたもの。 ○おつまみに適している。
玉こんにゃく		○こんにゃくのうち、玉状に凝固させたもの。 ○煮物やおでん等に適している。	こんにゃく米		○こんにゃくのうち、米粒状に凝固させたもの。 ○お米と一緒に炊くことにより、カロリーを抑えることから、ダイエット食品として、また、糖尿病など低カロリー・低糖質制限が必要な人に適している。